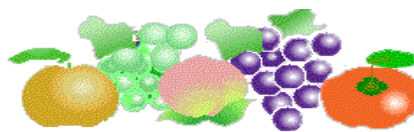


令和5年度 しらかわ果樹情報第5号



令和5年6月30日

福島県県南農林事務所農業振興普及部

1 向こう1か月の天候の見通し（7月1日から7月30日まで）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。

2 発育状況

果実肥大は、どの品種も暦日比較では平年より大きいですが、満開後日数比較ではどの品種も平年並となっています。

表1 管内の各品目の果実肥大状況（6月15日時点）

	あかつき		幸水		豊水		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
今年 (mm)	43.5	40.1	27.1	31.7	28.5	31.2	36.1	38.9
平年 (mm)	40.6	34.7	25.8	28.8	25.9	27.0	32.3	32.0
平年比 (%)	107	116	105	110	110	116	112	121
昨年 (mm)	41.2	37.4	25.1	28.0	25.4	26.6	33.1	33.1

注) 調査地点：「あかつき」「幸水」「豊水」は白河市東上野出島、「ふじ」は白河市本沼

3 栽培上の留意点【凍霜害の事後対策として、新梢管理を徹底しましょう！】

(1) 共通

ア かん水

- 5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、**1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施する。**保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くする。

イ 草刈り、マルチ

- 樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行う（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされる）。
- 刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努める。

(2) モモ

ア 修正摘果

- 硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら、果実肥大や果形に注意して行う。**特に、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮が変色している果実、果頂部の着色が早い果実などは核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意する。園地ごとに核障害の発生状況を確認し、**核障害の発生が多い場合は修正摘果を2～3回に分けて実施し、商品果率の向上に努める。**
- 樹勢低下が見られる場合には、新梢生長と果実肥大が確保されるよう葉枚数に応じた着果量にするなど、適正な着果管理に努める。

イ 着色管理と極早生品種の収穫

- ・果樹研究所のDVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、収穫期は平年より早まる予想であるが、今後の気象によって変動することがある。園地や品種ごとの果実の成熟状況に注意し、枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シート設置等の収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施する。

ウ 核障害多発時の注意事項

- ・核障害のある果実は胚に障害が見られることが多く、硬核期以降に胚が障害を受けた場合は、多雨条件下では生理落果が発生しやすくなる。
- ・胚に障害を持つ果実は早熟することが多いので、収穫が遅れないように注意する。

(3) ナシ

ア 着果管理

- ・仕上げ摘果は、予備摘果終了後速やかに実施する。樹勢の低下や果実肥大の鈍化が観察される場合には、新梢停止期前（満開後60～70日）に着果数の10～15%程度を目安に摘果し、着果数を調整する。できるだけ果形、肥大の良い果実を残し、適正着果量に調整する。

イ 新梢管理

- ・「幸水」で副芽枝（果そう葉）新梢の飛びだしが多い場合はこれを摘心する。副芽枝を摘心する場合は、側枝基部20～40cm程度を目安とし、ロゼット状の基部葉とその上位2～3節を残して摘心を行う。※新梢停止期以降は薬剤の通りを良くするため最小限で行う。
- ・「豊水」では、満開後60日ごろに新梢伸長が緩慢となる予備枝は、翌年の果実肥大と果形が良いので、直ちに誘引を開始する。
- ・下垂や枝越しとなった新梢は方向を修正するとともに、側枝先端部の新梢が倒れた場合には立てるように誘引し、受光体制や薬剤の通りを良好にする。

ウ 予備枝管理

- ・「幸水」における予備枝の誘引適期は、新梢停止期の約10日前の満開後65日頃（新梢長が90～100 cm、展葉節数が23～26節が目安）。
- ・果樹研究所のDVRモデルによる「幸水」の発育予測では、裂果期（新梢停止期）は6月30日頃と予測されるため、誘引を未実施の園地では早急に行う。

(4) リンゴ

ア 着果管理

- ・仕上げ摘果は満開後60日までに実施する。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率低下の原因となるため注意する。結実の少ない園地では、着果数の確保を優先し、著しい不良果を対象に最小限度の摘果を行う。
- ・仕上げ摘果終了後は、修正摘果へ移行し、果形や肥大状況等をよく確認しながら、小玉果や変形果、病害虫の被害果、傷果、サビ果等を摘果する。

イ 枝吊り・支柱立て

- ・果実肥大に伴い枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため、支柱立てや枝吊りを実施する。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意する。

(5) ブドウ

ア 摘粒

- ・2回目のジベレリン処理が終了しだい、仕上げ摘粒を行う。果房の内部に入り込みそうな果粒や突出した果粒、密着しすぎている箇所を整理する。さらに、最上段の支梗には上向き果粒を残し、穂軸を囲むように配置すると果房の仕上がりが良くなる。仕上げ摘粒は、時期が遅れると果粒同士が密着し、作業性が低下するとともにハサミによる傷果の発生も多くなるため、果粒肥大の早い品種から計画的に作業を進める。また、摘粒では、果房に触れず穂軸を持って作業し、果梗は基部から切り落とすよう心がける。

イ 摘房

- ・着果過多は着色不良を招くため摘房を実施する。早めの摘房は、養分の浪費を防ぎ、果実品質向上の効果がある。摘房は、果粒肥大の揃いが悪い果房等を中心に実施する。収量を確保するため果房数を多く残しがちだが、品質の良い果実を生産するため、適正な着房数管理に心がける。

ウ 新梢管理

- ・実止まりが確認されしだい、特に強勢な新梢や混み合っている部分の新梢を整理し、棚面の明るさを確保する。また、伸び続けている副梢は2～3葉残して摘心する。

4 病害虫防除上の留意点（使用薬剤は防除暦を参照してください）

本年は生育が平年よりも大幅に進んでいるため、防除が遅れないよう注意しましょう！

(1) 病害

ア モモせん孔細菌病

- ★管内の新梢葉での発生は、枝病斑除去、防風ネット、秋期防除を組み合わせた総合防除実証ほで昨年より多い（表2）。また、果実での発生は実証ほ、対照ほともに昨年より多い。今後、降水量が多くなると感染が増加するおそれがあるため引き続き注意が必要である。病原細菌は降雨で拡散するため、防除対策は降雨前に行う。
- ・防除は気象情報に留意しながら降雨前の予防散布を基本に10日間隔で実施する。ただし、早生種では収穫前日数に十分注意し、使用する薬剤を選択する。
- ・新梢葉が茂り、春型枝病斑を見つけにくい、春型枝病斑の発生は7月ごろまで長期間にわたるため、見落としがないよう丁寧に樹冠内部を確認する。特に、樹冠上部での発生を見逃さないように注意し、直下への被害拡大を防止する（図1）。発病部位の取り残しは被害拡大につながるため、発病した枝、葉、果実などは見つけしだい取り除き、密度低減に努める。また、発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行う。

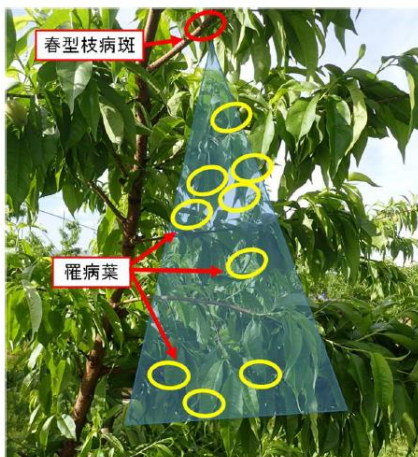


表2 モモせん孔細菌病の発生状況（白河市、品種：あかつき）

調査地域	新梢葉発病率 (%)			果実発病率 (%)		
	本年	昨年	一昨年	本年	昨年	一昨年
実証ほ（東上野出島）	7.6	7.4	1.5	0.5	0	3.5
対照ほ（同上）	23.9	44.6	4.4	1.5	0.5	4.9
実証ほ以外（本沼）	0.3	0	0.7	0	0	0

（調査日：本年6月28日、昨年6月27日、一昨年6月30日）

図1 春型枝病斑とその直下における新梢葉での発病

イ ナシ黒星病、輪紋病

- ・梅雨期に入り降水量が多くなると、二次感染により黒星病の発病が増加するおそれがあるため、罹病部位は見つけしだい取り除くなど耕種的防除を徹底する。特に、「幸水」では本病に対する果実の感受性が高い重要防除時期にあたるため、防除対策を徹底する。
- ・輪紋病も梅雨期が重点防除期にあたるため、6月中旬及び7月上旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布する。多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行う。

ウ リンゴ褐斑病、輪紋病

- ・果樹研究所における褐斑病の新梢葉での初発は、6月6日に確認された。梅雨期は二次感染を繰り返すおそれがあるため、発生が既に認められる場合は防除対策を徹底する。
- ・輪紋病は果実、枝梢部ともに感受性が高い時期となるため、防除暦に従い、いずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布する。

エ モモホモプシス腐敗病、灰星病
 ・伝染源となる芽枯れや枝枯れが確認される場合は、せん除し適切に処分する。早生種では灰星病の重要防除時期であるため、6月中旬及び7月上旬に防除効果の高い薬剤を使用する。**薬剤防除は、収穫前日数に十分注意する。**中～晩生種では、灰星病とホモプシス腐敗病を同時に防除するために、7月上旬に防除暦に従って防除を行う。

オ ブドウ晩腐病
 ・6月中～下旬頃の幼果期の防除が終了後、速やかにカサ掛けを行う。**カサは雨もりを防ぐように丁寧に**行う。なお、果面の汚れを防ぐため袋かけが終了するまで展着剤は加用しない。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ
 ・本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意する。

イ ナシヒメシンクイ
 ・本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降では、ナシなどの果実に移行する。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底する。

ウ モモノゴマダラノメイガ
 ・被害が発生しているもも園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、**10日間隔で2～3回防除を行う。**被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋める。また、前年に被害が多発した園地では袋かけを早急を実施する。

エ カメムシ類
 ・山間及び山沿いの園地では、カメムシ類の飛び込みをよく観察し、**多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。**

オ ハダニ類
 ・ハダニ類の発生状況をよく確認し、**要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行う。**

5 気象概況

6月3半旬から5半旬までの平均気温は20.2℃で平年より0.8℃高くなりました。降水量は136.0mmで平年比162.9%と多くなりました。日照時間は69.9時間で平年比118.9%となりました。

表3 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
6	3	19.7	18.8	0.9	23.0	23.7	-0.7	17.8	14.8	3.0	75.0	24.3	309	5.1	21.5	24
	4	21.2	19.4	1.8	27.7	24.1	3.6	14.8	15.6	-0.8	24.5	28.4	86	52.8	19.5	271
	5	19.6	20.0	-0.4	24.0	24.5	-0.5	15.8	16.3	-0.5	36.5	30.8	119	12.0	17.8	67
平均・合計		20.2	19.4	0.8	24.9	24.1	0.8	16.1	15.6	0.6	136.0	83.5	162.9	69.9	58.8	118.9

6 農業総合センター果樹研究所の生育状況（6月15日現在）

表4 ももの新梢伸長（満開後70日）

品種	新梢長（cm）			展葉数			葉色（SPAD）			新梢停止率（%）		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	7.9	13.1	60	13.0	15.3	85	43.8	42.8	102	77.5	76.6	101
ゆうぞら	9.3	14.3	65	12.9	14.8	87	42.2	43.2	98	70.0	78.4	89

注）平年は、1996～2020年の平均値

表5 ももの核障害発生状況（品種：あかつき）

年	満開後日数	30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2023	核頂部亀裂	17.0	35.0	30.0	15.0	-	5.0	15.0	-	-	-	-
	縫合面割裂	0	0	0	0	-	15.0	35.0	-	-	-	-
2000 ～2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
	縫合面割裂	0	0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

表6 もも「あかつき」の収穫期予測（6月15日現在）

品種		本年予測	平年	昨年	平年差
あかつき	収穫開始日	7月24日	7月31日	7月28日	7日早い
	収穫盛期日	7月28日	8月4日	7月30日	7日早い

表7 なしの満開後60日における新梢生長

品種	予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	86.7	98.3	88	85.0	87.8	97	23.7	26.1	91
豊水	91.0	98.7	92	77.8	81.5	96	24.5	26.3	93

注) 平年値：「幸水」の新梢長は1990～2022年、葉枚数は1998～2022年、
「豊水」の新梢長は1991～2022年、葉枚数は1998～2022年の平均値

表8 リンゴの新梢長及び新梢停止率

品種	満開後 日数	新梢長(cm)				新梢停止率(%)	
		本年	昨年	平年	平年比	本年	昨年
つがる	20	7.2	14.4	13.1	55	5.6	2.8
	30	12.9	20.4	18.0	72	13.9	52.8
	40	15.4	22.0	20.4	75	83.3	83.3
	50	17.6	22.9	21.3	83	88.9	100
ふじ	20	11.2	16.6	15.6	72	9.3	54.2
	30	17.0	22.5	18.9	90	22.2	83.3
	40	19.6	23.6	19.5	101	88.9	91.7
	50	20.3	24.0	19.7	103	100	100

注) 新梢長平年値は、1996～2022年の平均値
供試樹：「つがる」/M.26/マルハカイトウ 17年生
「ふじ」/マルハカイトウ 20年生

表9 「巨峰」の新梢生長

発芽後 日数	新梢長 (cm)			展葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
40	52.0	60.4	86	9.4	9.2	102
50	85.2	84.3	101	12.5	12.1	103
60	110.6	112.3	99	15.2	15.3	100

注) 平年値は2006～2022年の平均値

表10 ぶどうの開花日

品 種	開花始め			満開		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰	5月30日	6月4日	6月1日	6月4日	6月8日	6月11日
あづましずく	5月31日	6月4日	5月31日	6月3日	6月9日	6月4日
シャインマスカット	6月4日	6月7日	6月6日	6月7日	6月11日	6月15日

注) 平年値：「巨峰」は1998～2022年、「あづましずく」は2004～2022年、「シャインマスカット」は2009～2022年の平均値

★関連情報のホームページについて（URL、もしくはQRコードからアクセスください）

○県南農林事務所公式インスタグラム

県南地域の農林水産業に関するトピックス（果樹栽培に係る注意喚起等も掲載しています！）



○県南農林事務所農業振興普及部

農業技術情報、しらかわ果樹情報、果樹の発育ステージなど
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/kennan-nougyoushinkouhukyuu/kaju-info.html>



○福島県病害虫防除所

病害虫の発生予察、防除対策、発生状況など
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

